立論作成「消費税は必要か」否定側

「消費税は必要か」〈否定側〉の立論

これから否定側の立論を始めます。

私たちが消費税が必要でないことを主張する根拠は３つあります。その第一はめんどうくさい、第二は不公平が起きる、第三は何のためにあるのか、何に使われるのかがはっきりしないことです。

まず第一の根拠についてご説明します。みなさんご存じのように消費税の税率は３％です。１００円のアイスを買うと１０３円払わなければなりません。３円は１円玉３枚です。小銭を出すのはめんどうくさいし、時間がかかります。また、レジを打つ人の側になって考えてみますと、私たちが１１０円を出すと、レジの人は７円のおつりを出さなくてはいけません。これも時間がかかるし、計算やおつりのまちがいも多くなります。さらに、何か買おうとしたとき、消費税分のお金が足りなくて、その場を恥ずかしそうに去っていった人も少なくありません。このように、消費税とは多くの人の不満と怒りを背負っているのです。

次に第二の根拠についてご説明します。前にも述べたように消費税はすべての商品やサービスに対し、一律３％で課税されます。ここにＡさんとＢ君がいます。Ａさんは年収２千万円の実業家、Ｂ君は貧しいサラリーマンです。両方の人たちが、今１千万円の高価なつぼを買おうとしています。当然消費税は１千万かける３％で３０万円とられます。Ａさんにとっては、たいしたことのないはした金ですが、Ｂ君にとっては月収よりも多くなって生活に支障が起こります。ここに低所得者ほど収入に占める税負担の割合が高くなる「逆進性」という不公平が起こってくるのです。また、今は税率が３％ですが、将来これが、５％、１０％と上がっていく可能性があります。資料１をご覧ください。大体の国々が導入時期から現在まで、消費税の税率が上がってきています。これでは、ますます不公平の差がひらく一方です。

次に第三の根拠についてご説明します。私たちは買い物をする度に消費税を払います。今は日も経って慣れてきてしまいましたが、最初のうちは、なぜ払わなくてはいけないのだろうと消費税の必要性に疑問を持ったことはありませんか。私たちも中３ですから税の役割について、使われ方についてもだいたいわかってきました。しかし、私たちは、まだ疑問を持っています。前に述べた消費税の使われ方について、はっきりとはわからないのです。実際にはきちんと政治のために使われていると思いますが、私たちの生活に直接それが使われているという実感はあまりないと思います。ですから、私たちはこんなに払っているのに、毎回毎回払っているのに、なぜ生活がよくならないんだろうと思っているわけです。

以上をもって、私たちの立論とさせていただきます。ありがとうございました。